

科目名		就職実務Ⅱ				
担当教員		富山 翔		実務授業の有無	有	
対象学科		建築大工科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択		必修	授業形式	講義	時間数	16
授業概要、目的、授業の進め方		1. 就職活動のスケジュールを把握させ、計画的に活動できるよう指導する。 2. エントリーの仕方、面接対応など説明のほかにロールプレイングを交えた、実践的な指導も行う 3. 業界研究や、企業研究などの情報収集はインターネットや情報誌、ガイダンスなどで自律的な活動を促す指導をする。 4. 実際の就職活動に対する、個別指導。				
学習目標 (到達目標)		①自律的な就職活動ができるようになる ②内定の確定 ③社会人としてのマナーとルールが身についている				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		SUCCESS、配布プリント				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	訪問・受験・内定まで-1 ①就職活動のルール ②履歴書・エントリーシート			方法：教科書を使って説明 N I TおよびN S Gカレッジリーグの就職活動に関するルールが理解できる。履歴書などが完璧に書ける。		
2	訪問・受験・内定まで-2 ①就職活動の作戦 ②企業訪問・お礼状の書き方			方法：教科書を使って説明 自分の希望や家族の考えを整理し、自分なりの就活のストーリーを頭に描き、作戦を立てることができる		
3	訪問・受験・内定まで-3 ①面接対策 ②一般常識・就職作文の書き方			方法：教科書を使って説明 各企業の過去試験内容を理解し、対策ができる。また、その際の注意事項がわかり、実践することができる。		
4	内定したときの対応 ①お礼状の書き方 ②ビジネス文書の書き方			方法：教科書を使って説明 各種書状の必要性を理解し、相手に対して失礼のない文章を書くことができる。		
5	就職活動状況の共有・個人面談			クラスの就職活動情報共有しながら、特に活動に問題のある学生を中心に個人面談を行う。		
6	まとめ			前期のまとめ。一般常識や就職活動についての評価テスト。		
7						
8						
9						
10						
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
期末テスト	課題・提出物	取組姿勢		内定に結びつけるための就職活動の支援と、社会人になってからのマナーの重要性を学ぶ。また、実際の採用試験を踏まえた対応を行うため、個々の就職活動状況の把握をするとともに、個別対応も同時に行っていく。但し、あくまで、自律的な活動を促すことを指針とした指導とする。		
40 %	50 %	10 %	%			
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
実務経験教員の経歴		建築事務所に勤務し、社会人としての実務経験3年				

科目名		建築計画Ⅱ				
担当教員		熊谷貴子		実務授業の有無	有	
対象学科		建築大工科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択		必修	授業形式	講義	時間数	16
授業概要、目的、授業の進め方		非住宅建築物ごとの、種類・規模計画・動線計画・平面計画・断面計画・設備計画・関連用語などを学ぶ ・教科書で用語・数値など重要項目をチェック ・まとめ板書 ・テスト				
学習目標 (到達目標)		2級建築士試験の学科<計画>に対応できる知識を習得する				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		○図説 やさしい建築計画 (学芸出版) 各自で準備 ●教科書をチェックするマーカーペン ●板書を記入するノート				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	小学校・中学校			運営方式、動線計画、教室計画、関連用語を学ぶ		
2	幼稚園・保育所			幼稚園と保育所の違い、幼児児に配慮した各部計画を学ぶ		
3	テスト①			学習達成度を確認する		
4	図書館			種類、構成、動線計画、閲覧形式、書架配置、用語を学ぶ		
5	博物館・美術館			種類、構成、動線計画、巡回形式、照明計画、用語を学ぶ		
6	テスト②			学習達成度を確認する		
7	劇場・映画館			種類、構成、動線計画、舞台形式、客席計画を学ぶ		
8	事務所			レントブル比、コアプラン、事務室の計画、関連用語を学ぶ		
9	テスト③			学習達成度を確認する		
10						
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
評価テスト	期末試験	取組姿勢		様々な建築物の計画を学び、身近な建築物の計画に興味を持って接していきましょう		
40 %	50 %	10 %	%			
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
実務経験教員の経歴		建設会社にて設計補助・インテリアコーディネーター、職業訓練校にてCAD・製図の外部講師、現在家業の建築大工と協働				

科目名		建築施工 II			
担当教員		渡邊 晋太郎		実務授業の有無	有
対象学科	建築大工科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形式	講義	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	建築物の構造躯体である鉄骨工事の分野から学んでいく。 この前期では、その他の内外装工事のいろいろな施工方法や製品管理の仕方、材料の種類などを詳しく学び、それが理解できる様になることを目的とする。 後期に目指す2級建築施工管理学科試験、そしてその後の2級建築士学科試験を見据えて、詳しく学習する。				
学習目標 (到達目標)	2級建築施工管理学科試験、2級建築士試験合格レベルの知識定着を目標とする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	図説 やさしい建築施工 (学芸出版社)、配布プリント				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	鉄骨工事 (工場作業)			鉄骨造の基礎部分についてや、ボルトの種類、加工図、現寸検査などの役割などを理解できる。また、溶接方法、鉄骨部材の製品検査の方法が理解できる。	
2	鉄骨工事 (現場作業)			鉄骨の建て方の工程を理解できるようになる。それに付随するアンカーボルトの役目や高力ボルトの役目を理解することができる。また、耐火被覆との密接性も勉強する。	
3	屋根工事			屋根工事の種類を覚え、雨仕舞の施工方法を理解することができる。	
4	防水工事			防水工事の種類を理解し、納まりや手法を理解することができる。防水の一種でもある【シーリング工事】も一緒に学ぶ。	
5	左官工事			左官工事にかかわる材料の種類を学び、それをどのような工程で施工していくのかを理解する。	
6	タイル工事			タイルの種類を理解し、その施工方法を学ぶ。	
7	石工事			張り石工事の施工方法の種類を理解することができる。	
8	内装工事			内装工事の施工方法の種類を理解することができる。	
9	順次 評価テストを実施する。 (2回以上実施予定)				
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
期末テスト	評価テスト	取組姿勢		評価テストを随時実施し、その評価を加える。課題提出を課した場合は、提出の有無、提出期限の厳守、課題内容によって取組姿勢を評価をする。取組姿勢に関しては、出席率や遅刻回数も加味する。日頃の学習を疎かにすることなく、授業に臨むこと。	
40 %	40 %	20 %	%		
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		意匠設計実務11年			

科目名		構造力学II				
担当教員		星野 麻子		実務授業の有無	有	
対象学科		建築大工科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択		必修	授業形式	講義	時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方		1年次に習得した反力及び応力の基礎知識を基にすすめる為、まずはこれまでに得た知識の定着を確認する。その上で断面の性質について学び、様々な問題を通して習得する。更に1年次で学んだ部材に生じる力を基に、応力度に関する知識を習得する。各項目について理解状況の確認の為テストを行う。				
学習目標 (到達目標)		部材の断面に作用する力の種類と性質を理解し、断面に係る力の算定方法を習得する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		図説 やさしい構造力学・配布プリント				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	断面一次モーメント(図心)			図心を理解して断面1次モーメントを学び、例題を利用して解法を習得する。		
2	断面二次モーメント			中立軸を理解し、例題を利用して断面二次モーメントの解法を習得する。		
3	断面係数			断面係数を理解して解法を学び、例題を利用して断面二次モーメントと共に習得する。ここまですべてを評価テスト1で確認する。		
4	軸応力度			軸応力度とひずみ度の関係を理解し、軸応力度の解法を習得する。		
5	曲げ応力度			曲げ応力度を理解し、曲げモーメントとの関係を習得する。		
6	せん断応力度			せん断力とせん断応力度との関係を理解し、せん断応力度の解法を習得する。		
7	許容応力度			材料の塑性による限界値を学び、その値より小さい許容値=許容応力度について習得する。		
8	許容曲げモーメント			曲げ応力度が許容曲げ応力度に達するときの曲げモーメントの値=許容曲げモーメントについて習得する。ここまですべてを評価テスト2で確認する。		
9						
10						
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
評価テスト1	期末試験	—	取組姿勢	構造力学は建築士試験に於いて点数の稼ごころとなる部分です。全ての項目に於いてその後の問題を解くために確実に身に付けていかなくてはなりません。分からないところを分からないままにせずしっかりと身に付けて次に進むようにしましょう。解けた時の達成感を楽しみながら学習しましょう。		
40 %	50 %	— %	10 %			
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
実務経験教員の経歴		住宅設計に11年間従事				

科目名		一般構造 II			
担当教員		目黒 敬也		実務授業の有無	有
対象学科		建築大工科	対象学年	2	開講時期
必修・選択		必修	授業形式	講義	時間数
授業概要、目的、授業の進め方		建築物の構造の種類や基本的な仕組みを学ぶ科目で2年生ではS造、RC造を主体に学び、それぞれの構造の特徴や構成を座学や事例を通して学ぶ。			
学習目標 (到達目標)		建築物の構造の種類や基本的な仕組みを習得する。2年生ではS造、RC造を主体に学び、それぞれの構造の特徴や構成を習得し、2級建築士学科試験の科目範囲の合格点に達するための知識を習得する。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		①図説 やさしい建築一般構造 (学芸出版社) ②配布プリント			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	鉄骨造-1 ①鉄骨造の特徴、構造形式			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
2	鉄骨造-2 ①接合部 (リベット、普通ボルト、高力ボルト)			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
3	鉄骨造-3 ①接合部 (溶接)			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
4	鉄骨造-4 ①部材の設計、各部の構造			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
5	鉄筋コンクリート造-1 ①コンクリートの特徴 ②コンクリートの強度			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
6	鉄筋コンクリート造-2 ①鉄筋の特徴 ②鉄筋コンクリート造の基礎知識			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
7	鉄筋コンクリート造-3 ①鉄筋の配筋計画			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
8	鉄筋コンクリート造-4 ①せん断補強筋比の計算			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
9	その他の構造 ①SRC造・補強コンクリートブロック構造 ②組積造・プレストレストコンクリート造			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①、②を理解する 準備学習：教科書①、②の予習	
10	評価テスト (2回実施予定)				
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
期末テスト	評価テスト	取組姿勢		社会に出てからの実務や建築士試験を受験するときに不可欠な、建築一般構造について学びます。 2年生ではS造、RC造について仕組みを中心に解説をし、評価テストで理解度を確認しながら合格基準への到達を目標とします。	
50 %	40 %	10 %	%		
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		建築大工として約5年実務に携わる			

科目名		建築法規Ⅱ				
担当教員		澁谷 征延		実務授業の有無	有	
対象学科		建築大工科	対象学年	2年	開講時期	前期
必修・選択		必須	授業形式	講義	時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方		「建築法規Ⅱ」は、1年次の基礎知識を基に、二級建築士試験・実務に対応出来る建築法規の習得を目的とする。授業内容に伴い、基準法・施行令・告示等の関連を練習問題等で確認して条文の理解を深める。				
学習目標 (到達目標)		二級建築士取得に必要な建築法規の知識習得を目指す				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		「図説やさしい建築法規」・著者：今村仁美・田中美都 発行所：(株)学芸出版社、「建築関係法令集 発行所：(株)総合資格学院」				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	防火地域・準防火地域・法22条区域			防火地域(準防火地域)内に関する建築物の規定を説明する。 ※理解度のチェックを評価テストで確認。		
2	耐火構造・準耐火構造・防火構造等			建築物の耐火性能、防火材料に関する説明。また、用途・規模等による必要な構造の確認。(建築基準法 別表1による確認)※理解度のチェックを評価テストで確認。		
3	大規模建築物の防火区画			大規模建築物の用途・規模等による必要な防火区画・種類等を確認。防火区画の各種構造等を説明する。※理解度のチェックを評価テストで確認。		
4	特殊建築物の内装制限			建築物の用途・規模等による必要な内装制限があることを説明する。※理解度のチェックを評価テストで確認。		
5	避難施設(避難経路・直通階段・避難階段・排煙設備・非常用の避難施設)			廊下・階段等の必要な幅・出入口等、排煙設備・非常用の照明・進入口・昇降機の設置基準、構造が理解する。※理解度のチェックを評価テストで確認。		
6	構造強度(木造)※この項目は、時間があれば行うものとしてします			木造建築物の構造強度に関する規定を説明。また、構造計算・許容応力度計算の説明と確認を行う。※理解度のチェックを評価テストで確認。		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
小テスト	期末試験	平常点		法令は建築の全てで、つながっています。1年生で習った授業を思い出しながら、その関連する条項条文を確認できるように法令集を使いこなせるが大切です。いづれ皆さんの役立つ時がくるとしますので、難しく考えず、一緒に頑張ってください。		
20 %	60 %	20 %	%			
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
実務経験教員の経歴		一級建築士事務所主宰。建築実務(設計・設計監理・現場管理)18年				

科目名		建築材料実験			
担当教員	田中 みちよ		実務授業の有無	有	
対象学科	建築系学科	対象学年	2年生	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形式	実験	時間数	24時間
授業概要、目的、授業の進め方	<p>実験で経験したことは、社会に出てからの実務や建築士試験を受験する時に思いがけず助けになる。逆にひとつひとつの意義がわかるのは、少し時間が経ってからとも言える。</p> <p>実験をとおして、コンクリートの各材料（セメント・細骨材・粗骨材）の特性を知る。コンクリート調合設計の基本を知る。</p>				
学習目標 (到達目標)	コンクリートの品質管理と、建築物の工事監理及び施工管理における材料管理法の知識を得る。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	配布プリントを主とする。必要に応じて建築一般構造・建築材料テキストを引用する。				
NO.					学習方法・準備学習・備考
1	骨材の密度試験・吸水率試験				細骨材・粗骨材の密度と吸水率を調べ、コンクリートの骨材として適するかどうかを確認できる。
2	骨材ふるいわけ試験				細骨材・粗骨材の粗粒率と粒度分布を知り、それがコンクリートの骨材として適するかどうかを確認できる。
3	セメント密度試験				セメントの密度試験の結果から、セメントの種類と風化の程度を知ることができる。
4	コンクリートの調合設計				各実験データをもとに、コンクリートの調合計算を行い、各材料の質量・容積を求めることができる。
5	供試体の製作、養生				先に求めた量でコンクリートを練り、各水セメント比での圧縮試験用供試体を製作する。更に標準養生にて養生を行う。
6	コンクリート圧縮強度試験				圧縮試験を実施し、各水セメント比における試験データを分析し、水セメント比と強度の関係を知ることができる。
7					
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
期末テスト	取組姿勢			<p>この実験はグループ作業であり、社会に出てから特に重要となる協調性も視野に入れている。実験態度、グループ内での協調性、レポート、試験で総合的に評価する。</p> <p>また、高価な器具と危険な動作もあるため、別紙注意事項を遵守する。</p>	
70 %	30 %	%	%		
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴	建設会社及び建築設計事務所(自営)で、施工管理・積算・品質管理の実務31年				

科目名		建築実習Ⅰ			
担当教員	富山 翔		実務授業の有無	有	
対象学科	建築大工科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形式	実習	時間数	96
授業概要、目的、 授業の進め方	建築大工の技術者として基本となる道具の知識・使用法、管理を学び、建築大工技能検定2級の課題を中心とした実習。 1.説明→作業実習→添削と評価→修正を繰り返し行い、基礎技術を身に付ける。 2.正確な手順を理解し練習する。また習得レベル差ごとの指導も適宜行う。 3.刃物など、注意が必要な道具を扱う実習のため、安全管理に留意する。				
学習目標 (到達目標)	建築大工技能検定2級の取得を目指し技能を習得する。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	配布資料、大工道具				
NO.	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	刃物研ぎ ①砥石の特性を理解する ②刃物を正しい姿勢、研ぎ方で研ぐ		方法：作業内容の説明、注意事項の説明。 達成目標：①、②の作業の習得		
2	カンナの技術習得 ①カンナを使い、木材を削る、粗削り・仕上げの違いを理解する ②寸法を決めその寸法通りに削る ③斜めに木材を削る		方法：作業内容の説明、注意事項の説明。 達成目標：①、②、③の作業の習得		
3	ノコギリの技術習得 ①正確な断面の精度向上 ②斜め加工の習得		方法：作業内容の説明、注意事項の説明。 達成目標：①、②の作業の習得		
4	電動工具の技術習得 ①インパクトドライバーを使用した穴あけ		方法：作業内容の説明、注意事項の説明。 達成目標：①の作業の習得		
5	建築大工技能検定2級の課題 各部材ごとに 削り・墨付・加工・組立 を行う		方法：作業内容の説明、注意事項の説明。 達成目標：課題の完成		
6					
7					
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
提出課題の評価	取組姿勢			前期中に大工技能検定2級の課題を作り、後期の実習や検定本番へのイメージを作る。確実に技術を習得できるように毎回の目標を設定し実習に取り組む。また、正しく道具を使えるようになることで、ケガをしないようにする。	
70 %	30 %	%	%		
成績評価基準は					
A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴	大工工事に携わる実務経験3年				

科目名		架構実習Ⅱ			
担当教員		上田 正義		実務授業の有無	有
対象学科		建築大工科	対象学年	2	開講時期
必修・選択		必修	単位数		時間数
授業概要、目的、授業の進め方		建築大工の技術者として基本となるな道具の知識・使用法、管理を学び、在来軸工法の基礎的な技術を実習を通して学ぶ 1. 説明→作業実習→添削と評価→修正を繰り返し行い基礎技術を身につける。 2. 加工、工法に応じた道具と、手順を理解し修練する。また習得レベル差ごとの指導も適宜行う。 3. 刃物など、注意が必要な道具を用いた授業のため、安全管理に留意する。			
学習目標（到達目標）		建築工法が多様化している昨今、長い歴史と根強い人気を持つ在来軸組工法の基礎的な諸作業を行う実習を通して、建築大工の心構えや知識、技能の基礎を身につけ社会に貢献できる人材を育成する。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料					
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	火打梁作成 ①直角の2材間に45度の斜材（火打梁）の取り付け			方法：作業上の注意事項の説明。大工道具を使って材料の加工方法の説明。 達成目標：健康、安全管理ができており、①の作業ができる。	
2	継手作成 ①1年次の復習：腰掛鎌継ぎ・蟻継ぎの作成			方法：作業上の注意事項の説明。大工道具を使って材料の加工方法の説明。 達成目標：健康、安全管理ができており、①の作業ができる。	
3	住宅の階段の作成 ①住宅の階段の作成（チーム作業）			方法：作業上の注意事項の説明。大工道具を使って材料の加工方法の説明。 達成目標：安全作業で、①の作業ができる。	
4	校外実習 ①屋内加工			方法：一つのを全員で手分けをして制作にあたる。図面を良く見て墨付けや加工を行い正確かつ丁寧に仕上げる。 達成目標：チームで①の作業ができる。	
5	校外実習 ①校外実習			方法：一つのを全員で手分けをして制作にあたる。図面を良く見て墨付けや加工を行い正確かつ丁寧に仕上げる。 達成目標：チームで①の作業ができる。	
6					
7					
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
課題	取組姿勢			実践的な作業として行うため、確実に習得できるよう毎日の目標を設定し授業に取り組ませる。 知識と同時に技術を伴う内容のため、機能や管理方法を十分理解したうえで、道具等の安全な取り扱いに留意し繰り返し、積極的に実習に取り組む技術の習得を目指す。	
70 %	30 %	%	%		
成績評価基準は					
A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		建築大工として40年実務に携わる			

科目名	住宅構造演習				
担当教員	富山 翔		実務授業の有無	有	
対象学科	建築大工科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	授業形式	演習	時間数	48
授業概要、目的、授業の進め方	1/20の模型を製作することで、図面を読み取り形にする力、また図面から立体をイメージする力を養う。				
学習目標 (到達目標)	①模型の制作を通じて、住宅の図面から立体的な形状を理解する力を養う ②軸組模型を通じて、在来工法の仕組みや部材名称を理解する				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	①配布資料 ②製図道具 ③カッター等				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	軸組模型作製手順の説明			資料を使って説明、解説をする 達成目標：軸組模型作製手順を理解する	
2	軸組模型			方法：資料を使って説明、実演 達成目標：課題の完成	
3	1/20軸組模型-1 ①基礎、束石の作製 ②基礎、束石の取付			方法：資料を使って説明、解説 達成目標：項目①、②の完成	
4	1/20軸組模型-2 ①土台、大引、根太の必要数量の算出、木取り ②土台、大引、根太の製作、組立			方法：資料を使って説明、解説 達成目標：項目①、②の完成	
5	1/20軸組模型-3 ①柱、胴差、軒桁、梁の必要数量の算出、木取り ②柱、胴差、軒桁、梁の組立			方法：資料を使って説明、解説 達成目標：項目①、②の完成	
6	1/20軸組模型-4 ①2階床根太の必要数量の算出、木取り ②2階床根太の取付			方法：資料を使って説明、解説 達成目標：項目①、②の完成	
7	1/20軸組模型-5 ①母屋、垂木、の必要数量の算出、木取り ②母屋、垂木の取付			方法：資料を使って説明、解説 達成目標：項目①、②の完成	
8	1/20軸組模型-6 ①鼻隠し、破風板の必要数量の算出 ②鼻隠し、破風板の取付			方法：資料を使って説明、解説 達成目標：項目①、②の完成	
9					
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
課題の評価	提出期限を守る			社会に出てからの実務に不可欠な、在来工法の軸組模型について学ぶ。模型を製作することで木造住宅の組んでいく順序や部材の名称を理解する。	
80 %	20 %	%	%		
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴	大工工事に携わる実務経験3年				

科目名		設計製図B			
担当教員		三留 正		実務授業の有無	有
対象学科		建築大工科	対象学年	2	開講時期
必修・選択		必修	授業形式	実習	時間数
授業概要、目的、授業の進め方		1年時に習得した製図線の描き方・濃淡のつけ方・太さの使い分けなど基礎的な部分をしっかりと実践する。鉄筋コンクリート造 (RC造) の構造の仕組みを理解し、各種図面の作図・表現方法・図面の見方を習得するとともに、スピードも意識して行う。			
学習目標 (到達目標)		教科書のRC造2階建て図面(配置図兼平面図・立面図・断面図・矩計図)をしっかりとトレースしてA2サイズで提出する。その後、RC造課題図面(エスキスから作図まで)を理解・トレースし、A2サイズで提出する。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		<ul style="list-style-type: none"> ・初学者の建築講座 建築製図 ・製図道具一式、製図版(貸与) 			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	鉄筋コンクリート構造の製図 RC造の構造に関する説明			鉄筋コンクリート造の代表的な構造方式を学ぶ。	
2	鉄筋コンクリート構造の製図 配置図兼1階平面図・2階平面図の作図			作図手順を学び、作図演習で配置図兼1階平面図及び2階平面図の作図方法を習得する。完成後提出する。	
3	鉄筋コンクリート構造の製図 立面図の作図			作図手順を学び、作図演習で立面図の作図方法を習得する。完成後提出する。	
4	鉄筋コンクリート構造の製図 断面図の作図			作図手順を学び、作図演習で断面図の作図方法を習得する。完成後提出する。	
5	鉄筋コンクリート構造の製図 矩計図の作図			作図手順を学び、作図演習で矩計図の作図方法を習得する。完成後提出する。	
6	RC造課題図面の製図			2級建築士製図試験課題を使用し、エスキスから作図までの基本的な流れを学ぶ。	
7					
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
課題評価	取組姿勢			建築士試験に於いて二次試験の基礎となる部分です。線の太さと濃淡を意識してぶれないくっきりとした線を中心掛けましょう。課題提出締め切り日は常に意識して、集中力を切らさず取り組むことも練習しましょう。授業時間は集中し、休み時間はしっかりと休む等メリハリをつけて臨みましょう。メリハリのある図面を完成させたときの達成感を楽しみましょう。※取組姿勢：授業態度	
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		設計業務、施工管理業務に23年実務に携わる			

科目名		木造計画演習			
担当教員		富山 翔		実務授業の有無	有
対象学科		建築大工科	対象学年	2	開講時期
必修・選択		必修	授業形式	演習	時間数
授業概要、目的、授業の進め方		建築大工技能検定の検定取得の対策として、展開図の概要、作図方法を学ぶことで図面の必要性を理解し、また図面を読み取る力を習得し検定試験の合格基準に準ずるスキルを習得する。 1.説明→演習→添削と解説を繰り返し行い習得レベル差ごとの指導も適宜行う。 2.展開図の作図方法の基本を中心に、展開図の見方、描き方を解説・演習する。 3.検定対策として、制限時間を設けて時間内に描けるよう繰り返し練習する。			
学習目標 (到達目標)		原寸図を理解し、設けられた制限時間内に原寸図が描き終わる技術を身に付けることで、建築大工技能検定2級の取得を目指す。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		配布資料、大工道具、製図道具			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	原寸図の概要説明 ①原寸図にある各種図面 (平面図・正面図・側面図・展開図) を理解する			方法：原寸図の読み方の説明と解説。 達成目標：①の理解	
2	原寸図-1 ①CADを使って原寸図を描く			方法：作業内容の説明、注意事項の説明。 達成目標：①の作業の習得	
3	原寸図-2 ①検定と同じ大きさの紙に原寸図を描く			方法：作業内容の説明、注意事項の説明。 達成目標：①の作業の習得	
4	原寸図-3 ①制限時間を設け、時間内に原寸図を描く			方法：作業内容の説明、注意事項の説明。 達成目標：時間内に原寸図を描き終わる	
5					
6					
7					
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
原寸図の評価	取組姿勢			建築大工技能検定2級の対策として、原寸図を描けるように基礎知識をしっかりと理解すること。練習を繰り返すことで、早く作図ができるような手順を体に覚えさせていく。	
70 %	30 %	%	%		
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		大工工事に携わる実務経験3年			